



ひらひらだより No.4 2017.6.30

「家で野菜を食べています。どうしてひらひらで食べられるのでしょうか？」というお母さんの声をよく聞きます。ひらひらのごはんはおいしいからですかね。という声も聞きますが、ランチの風景を見ているとどうしておいしいのかはわかると思えます。「私たちが畑で採ってきたお野菜たちから残さず食べて。」とおおきくみの方が小さい人にも声をかけていることがありますが、「夏野菜、もうお野菜いらない」「ひらひら(澄検)もー!」「じゃあ二人ともカバタンになって、どちらが大きい口で食べられるかな?」と言ってきたら、「夏野菜のが大きいよ!」「私だって。」と大きな口を開けて順番に食べているうちに「あれ?全部食べちゃった。」これはことごとくは「あつちゅう」です。たつぷり過ぎて「いい白い〜」「ごはん、まだー?」と待ち遠しい声もたくさん。二人にお腹を空かせたら、何れ美味しく食べられかね。この10年間、「みんなで一緒に楽しくおいしく食べる」ことを大切にしてきました。反対においしさを楽しましつづから、大きい人も小さい人も一緒に食事と囲むことで、そこには様々なやりとりが生まれます。田んぼや畑で丁寧に育てた作物を、みんなで洗って、皮をむいたり切ったり料理が出来るまでの過程に関わることで、食べることへの関心が育つていくと感じます。

子どもたちが田んぼにやってくる時、まずは羊たちに草のあいさつ。「りんごーあんず! ももちゃん、おはよう!」と草を食べさせます。お母さんと一緒に子どもも羊にひかれながら草を採ることが田んぼのいいところ。はじめは子どもたちが追いつけず、追いついたら「おはよう!」と挨拶して羊たちも、草をもらうとわかると、「はい、おはよう」と返すようになります。「動物が好きな草で羊が食べてくれる草はありますか?」とよく聞かれますが、羊を飼おうと思えばいろいろあります。田んぼの大きな草や大豆の殻、麦を焼いた後の麦わらなど。そのままだと土に還らないものは、燃焼したり切り刻んで土に返すようにしてあげます。羊が食べる草やこれらの作物の屑を食べてくれる土に糞は肥料になります。さらには羊毛が採れる。田んぼのわらが冬の間の食料からえは金で買わなければならない。しかも何れも可愛いとて。一石二鳥どころか三鳥?くらいです。ひらひらの子どもたちにも毛刈を見せてあげたいなという夢もついに実現しました。羊が毛刈にどのくらいか?とかななびくりに聞いてみた。大袋6つもとれた羊で、何をやるの?と聞いてみた。

さらには、羊を飼いはじめ、近隣の田んぼの方々のついでに増えてきた。「うちにも昔はたくさん羊がいたんだ、たのしかったよ。」との声にきてくれたら、「こんな羊がとるか、親父がよくあげてたよ、食べるかな?」と昔の羊を思い出して草の採りから冬にかけて色々の作物を下すまで。「昔は家畜も子どももこの羊に慣らされたから、今ではおわりを覚えてきた。すみねえ。田んぼには子どもが似合うからね。」と。ひらひらの子どもたちが遊んでいると「おまじいおまじい置いといてください。子どもたちが遊んでいると温かく見守ってくださるは本当に有難いことです。」

田んぼの雑草は青々と元気に葉を広げ始めました。昨年秋に羊の糞と小屋の敷きわらを混ぜた堆肥を土にすき込んで田んぼでは、みんなが育てた雑草の根が根を伸ばして伸びています。その間にカエルやアゲハ蝶なども泳いで回り、それを食べると早稲には毎日青ササキが田んぼに育つていきます。「あ、里芋も死んでる。」「ミミズが水に浮かんでる。」色々の命が入れ替わり、積み重ねて、そこからまた新しい命が育つ不思議。生きものは田んぼの「循環」を担ってくれています。そのうち去年死んだ雑草の羊「麦」のお墓に草花が生えていました。「この草、麦の根のお墓から生える」「麦の体が栄養に変わってるのかな。」「どういうお肥料のいのち?」「この草ももろもろ食べてるね」子どもたちがお墓にしゃがんで話しているのが季節的でした。私の田んぼには羊の糞とわらや草を積んで発酵させた有機的な肥料を入れていますが、隣の畑さんの田んぼには化学肥料も入れていました。浅間山の火山灰土が積もっているこの辺りの田んぼは土がやせていて寒い気候もあり、昔から作物が良く育たなかった。それが、化学肥料ができてからは、やがてお米がたくさん採れるようになった。それと近隣の田んぼの化学肥料の信託は根強い。草刈りをする手間がかかるからと、除草剤をまく畑も多い。でもそれらを採る場合、左側的に生きものが少なくなると、その薬害によって何らかの生き物の命が奪われ、循環の輪が崩れ、病害虫が大量に発生してきて、またそれをやめようとして薬をまくという悪循環に陥ることもあります。でもそれを採る自然の田んぼでは、何か害虫が発生すればそれを食べられる益虫もバランスよく居てくれるので、虫や病気が一番に発生するということはありません。それぞれの命はつづいて大切にしていくしかありません。それぞれの命のつづきの上に出る作物を子どもは食べています。

人と人のつづきの中で温かく見守られ、生き物の命の循環の中、その命の一端をいただくしかありません。子どもたちが育てる作物、大切に採れた作物をシブシブと味わって、素材を味わう。みんなで楽しく食べると心も身体も健康になります。子どもたちと一緒においしく。今もランチのX=2=2を考えています。 : 美和子

おおきいくみだより

くり、大くりさんが電車の旅に出かけた6/19、松ぼくりさんは田んぼで過ごしました。朝は羊さんのところへ行って餌やりです。羊さんが葉っぱをどんどん食べるのでみんなはわこさんが用意してくれた籠いっぱい葉っぱを何度も何度も運んであげていました。その後、くり、大くりさんが乗る電車を見ようと線路近くまで行きました。手を振る練習もしたのに、ちゃんと思いの外線路脇の草が伸びていて、くり大くりさんの姿はよく見えなかつたのでした。(大人からは窓に入はりついてこちらを見るくり大くりさんが見えました!) 気を取り直して朝の集い。そしてこの日は大豆の苗の移植とかぶりの収穫のお仕事を任せられていたみんな、わこさんにやり方を教えてもらいほげ、ひよろりとした大豆の苗を両手でしかりと持て、「おおきくな、てね」と丁寧に植えつけ。みんな集中しています。次にかぶりの畑へ。1人1つかぶるを選びました。「よいしょー」「うんとこしょー」大きなかぶりが現れて「や、たー!!」と大観声が上がります。みんながとびきりのいい笑顔を見せてくれるもんだから大人も飛び跳ねて喜んだのでした。みんなと一緒に喜び合うと楽しい事がこんなにも大きくなるんですね。お仕事の後は畦道をのんびり散歩。田んぼには大きなおたまじゃくしがいっぱい! 手で掬って触ってみる子も... 玄太ちゃんと渚さんは露の葉を傘にしました。おとこ登唄ちゃんは「これスカートにしたい!」と言い、えりさんにズボンのゴムの所に差し込んでもらうとバレリーナみたいにぐるぐる〜と回っています。それを見て今度はさくらちゃん、「ほらっ!」とちゅっぴり恥ずかしそうに(よにかむ)バレリーナが。沙季ちゃん友佳梨ちゃんもこれに続き「うふふ」と笑っています。その頃英志くんは田んぼに落ちて、走って水路へ、草花を洗っていました。沙季ちゃんも水路に落ちて、真永ちゃんが「あっこさ〜ん」と大きな声で呼んで助けられました。11時半、「そろそろお弁当にしようか」と話すとすぐにお弁当を広げた英志くん。実は畑のお仕事をやる前から「あ〜もうお弁当開けたくたふらったー」と口ずかしていたのです。お母さんを思い浮かべて食べるお弁当の時間。みんなのうれしくておいしい笑顔が青空の下輝いていたのでした。午後は線路下の森の中に入って遊びました。松ぼくりさんだけで過ごした1日。同学年のだいたい同じペースで遊べる良さ、お互いの声を聞き合っ、その時その時の思いを大事に生かしながら過ごせる良さがあるなと感じました。うれしい事がひとつふたつと増えていく喜びを見つけた1日でした。(優子)

田畑だより

おおきいくみで「じゃがいもの種いもを植えるのに、所々芽が出ている場所がありまして。その間に何かがこぼれればじわじわと種いもが芽を伸ばしてしまふ。」「これ、誰か食べたんですか?」「ねずみ?」「モグラかな?」「食べられちゃうと困るねー」農薬を使っている畑には生き物が暮らしていきまふ。さうして、びらびらの種いもは去年と似たお芋なので、消毒している種いもはおいしい餌とわらわれいふので、「でもこぼれはねずみやモグラでなくはね。」「お腹空いて死んでしまうのかな?」生きものも食べたくて生きられないと子どもたちは体験の中で考えまふ。「ちゅっぴだけならおいしいも食べちゃうも仕方ないか。」おとこ自然農法を教わっている先生は、「少し多めに作る動物たちにも食べさせてあげよう。それと命には必ず役割があるから。」とあつしつていまして。この畑にも鹿やキジ、野ねずみやモグラがやってくる作物を荒らすとこがありまふ。ちゅっぴは「お芋は大豆を土にまいて後食べられないようか」に穴が開いてるお芋に「豆を食われないようにして、でもその誰かを排除してはくちやりのごはく。其に生きたくてどうしてはく?」「子どもたちと一緒にはくちやりの命には、それを考える」という役割もあると思つていまして。幸いにも野ねずみやモグラが食べずに芽を出してじゃがいもや、鳥に食べられずにお芋は大豆や小豆も、お芋は大豆は育つていきまふ。 : 笑和子

びらびの森の木の実たち 6月 ミツバウツギ ~ ちゅっぴになるまでかたれんぼ ~

やわらかい緑の森の緑もあ、かり濃くて、雨の日には森の中が少し暗く、感じよむ季節になりました。この季節に咲く花たちは「色」という視点で見ると圧倒的に草花も「白い花」が多いのに気がさせまふ。ヤマボウシ、ミズボオノキ、そして今月紹介する「ミツバウツギ」。濃い緑の中に赤い花がほんと美しく映えているのでした。『緑と白』という組み合わせは人の目にもですが、虫の目にもはっきりとうつります。また、この季節の花は見た目だけでなく、香りも強くて、色と香りで、ちゅっぴらと森の中にも虫たちをひきつけるのです。ミツバウツギも今月初旬〜中旬頃、ちゅっぴの森で三つ葉の花が、その甘い香りに気がついた方はいらっしゃるでしょうか? 私には思わすその蜜をためたくた、てしまふくらい甘い香りがする。そして、今は早くもミツバウツギは実りの準備をはじめまふ。ハートをひっくり返したおとこ少し変わった形の花のさやの中に米粒くらいの種が、2〜4こ入っています。さやの色は花とは違い、緑色で目立たず、一見しただけでは実がたまっているとは気がつきにくく、びらびの森の緑をたるところに、ちゅっぴらと大人の目の高さあたりにたくさんありまふ。ぜひ、採ってみて下さい! : 菜々丸



秋には茶色になる 鳥たちの食糧になります

お知らせ

お泊り会 お疲れさまでした。ご協力をおかりありがとうございました。

- これからしばらく、お天気の好日は、水遊びが盛んに行われる予想です。プールを出る日もあると思います。
濡れタオル・帽子・タオル・スーパースローを一緒にスーパースローに入れておいて頂きたいようお願いいたします。

退園のお知らせ

おぼっけり 加藤友佳梨ちゃんが東御市の保育園に転園することになりました。ご家族皆さまがお元気で、新しい生活に早く馴染めるように。

保護者会のお知らせ

日時 7月5日(水) 9時30分～お昼まで。
場所 追分公民館 (右頁地図参照)

7月の森作り

日時 7月9日(日) 9時～
内容 ままじと棚、ポストからのアプローチ、土運び、ネット他。

6月は中止になりました。降りませんでしたね。
ご予約くださった皆さま、お持ち帰りください。

お泊り会 7月の予定

- 3日(月) お出かけ) 追分宿へ。(集合) 追分公民館、解散) 追分宿馬場 (右地図参照)
 - 6日(木) えりんこたいやん (当初予定の7/4からの変更です)
 - 10日(月) アート
 - 13日(木) 田んぼ
 - 18日(火) えりんこたいやん
- ※お料理は、黒板にてお知らせいたします。

• 7月のぼっけ (3日、13日は雨などのひびの森にお泊り場合開き可)

• 一学期保育修了日は 21日(金)です。

講演会のお知らせ

日時 10月31日(火) A.M.
場所 バンビル メインホール。
講師 山田真理子さん
ご著書 「機微を見つめる」子ども・こころ育ち (エイデル研究所)
「子どもの心と絵本」(絵本と保育研究所 ぷろぼ) 他。

ご著書を通して、ひびスタッフは学びさせていただいてきました。この度、ひびに来て下さることが実現しました。「こころ」の土台を形成する最も重要な乳幼児期の問題に対して、礎を踏む。子と、儼然とまはせしと、柔軟な若さ方とわかちあひの言葉で語って下さると思います。ぜひ、ご参加下さい。お泊り会の方もお待ちしております。よろしくお願ひいたします。

< 追分公民館と追分宿馬場の地図 >

